

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

- ・高齢者だけでなく、年齢にとらわれず基盤支援を必要な人々とそのニーズを把握して行く。
- ・柔軟で個々の課題に対応できる多元的なサービスの提供と地域資源の活用を推進する。
- ・自主財源の確保も住民活動の一つであり、仕組みづくりへの協力を得ていく。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

- ・人口も約1万人であり、中学校も1校ということから、全町を1ゾーンとすることが出来た。

イ. 部局内の連携の仕方

- ・事業を推進していくにあたり、関係課との連携は不可欠であるため、課を超えたワーキンググループを設置し、随時協議を重ね、事業を推進していく。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

- ・医療機関、商工会、警察、消防など連携を必要とする関係機関や事業者を含めた連絡会を設置し、情報の共有を図ることが大切である。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

- ・事業に取り組む以前より、社会福祉協議会や民生委員においては、地域での支援が必要とする人の把握が出来ていたため、アンケートの必要もなく、訪問員が個別に訪問を行い、アセスメントシートを作成することが出来た。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

- ・自治会長、民生委員、福祉委員、訪問員が把握している情報を持ち寄り、台帳を作成するとともに、地図に落としていった。

カ. 個人情報の取り扱い方

- ・調査を実施するにあたり、関係機関への情報の提供については承諾は得ているものの、取扱いに十分配慮しながらも、ケースによって判断を行っている。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

- ・地域の実情や訪問時の接し方などの研修が必要と考える。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

- ・地域の資源や特産品を利用した製品開発や収入源づくりに取り組む。

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

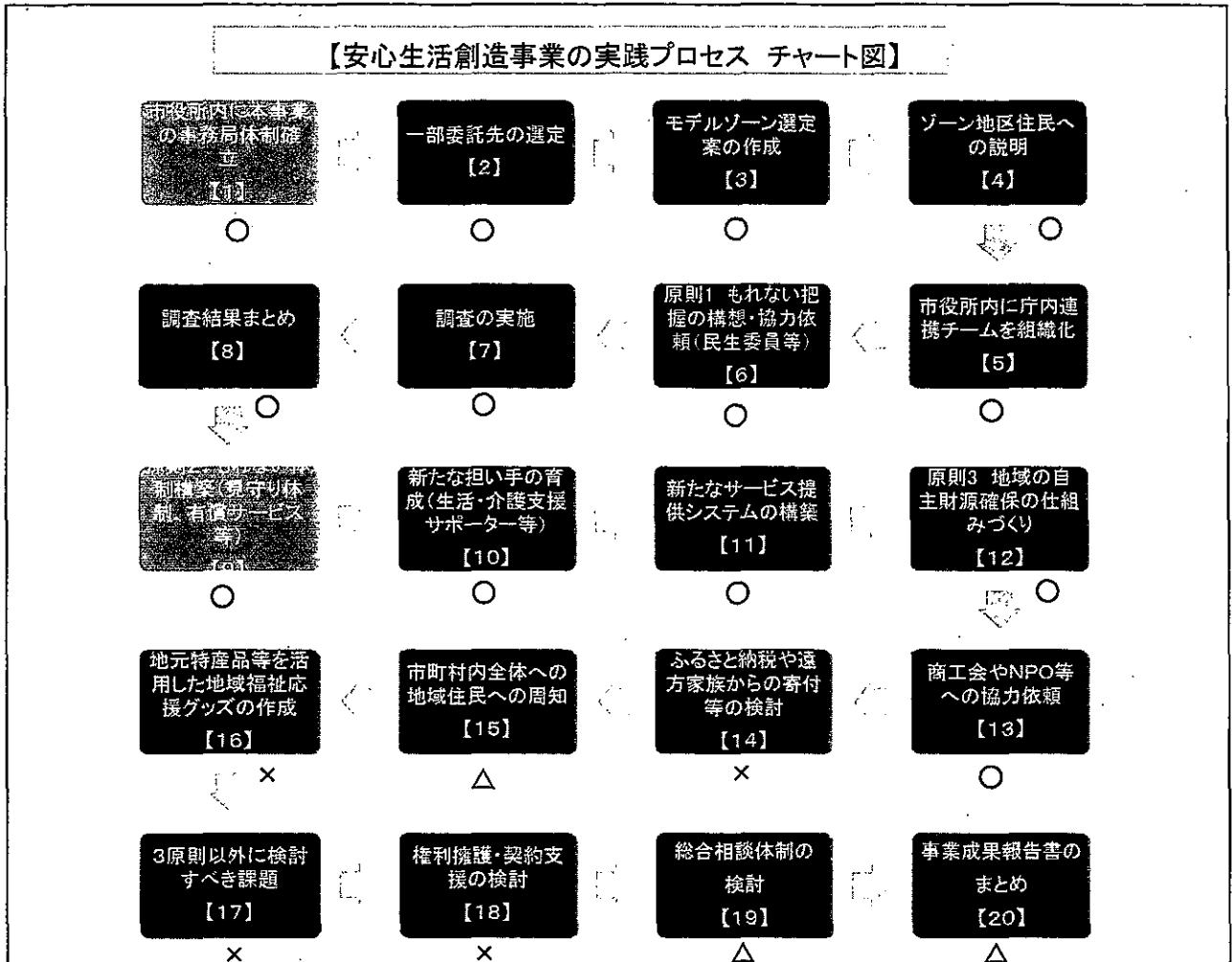
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	岡山県	市町村名	美咲町	所属ブロック	
人口(H24.10.1 現在)	世帯数(H 24.10 .1 現在)	高齢化率(H 24.10 .1 現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
15873	6351	35.5	15873		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
14	×	ホームページやブログ(美咲町社会福祉協議会)では広報しているが実際には寄付はなかった。
15	△	町広報紙、社協だより、のぼり旗で広報活動をしたが、地域住民への周知については、広く周知できたかどうかは判断が難しい。
16	×	キャラクターグッズとしてはステッカーを作成したが、地元特産品等を活用した地域福祉応援グッズについては作成していない。
17	×	高齢者の移動支援について検討はしてきているが、地域の交通事情との関係で実行できていない。

18	×	専門職や研修等との連携体制はできているが、事業に組み込んでの取組みはできていない。
19	△	関係機関の連携については、常に考え会議等を行い事業を進めてきたが、総合相談体制の構築まではできていない。
20	△	現在概要版を再構成し作成中である。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

買物支援について地元商店との連携、買い物サロンの拡大。生活支援サポーターのリーダー養成、スキルアップ研修、見守りの定着化、事例検討研修、小地域ケア会議に各地域のサポーターが参加し、普段の見守りの地域情報を提供し、地域での活動をさらに充実し、地域のバックアップ体制をつくる。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

美咲町は三町合併し、約人口16000人となり旧三町それぞれ地域の課題を持つ。中山間部、限界集落地域が抱える課題に対して生活支援、買い物支援対策が急務となっているという地域特性をもとに

イ. 部局内の連携の仕方

高齢者等安心生活推進協議会を行政、社協、商工会が連携し立ち上げ、運営を推進するとともに、安心事業定例会議(行政、商工会、社協)支え合いのまちづくり企画会議(行政、社協)等の定期的会議の開催。企画書、計画書などの提案会議や事業関連の啓発グッズの紹介など、協働で開発し、評価、効果の判定も行う。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

高齢者等安心生活推進協議会については関係団体の長を委員として開催し、関係機関との連携を図るとともに、安心事業定例会議(行政、商工会、社協)支え合いのまちづくり企画会議等(行政、社協)等の定期的会議の開催。民間事業所とは、商工会の協力の下会議を開催して連携を深めた。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

生活支援、買い物支援の要支援対象及び家族向け「生活支援サービスにつなげる内容となる項目(ex. 困っていること、頻度、人数、支援時間、料金制についてなど、対象者の現状を分析できる項目＝身体的障がい、精神的障がい、環境問題、相談場所、相談者の有無、具体的な内容を記入できるように支援など)既存支援の知名度、相談場所の有無など。サービス支援者向け(自分の把握している地域範囲、活動の意思、活動においての要望)

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

地域の見守りを行っている関係機関、民生児童委員、愛育委員、栄養委員、老人クラブ、ボランティア団体等の見守りネットワークの体制を構築し、情報の共有を図り、台帳の整備を行う。同時にマップを利用し、作成者が視覚的に状況を皆で把握できるようにする。要見守り者の地域で近所、知人などの支援者や、施設等本人との距離間、その他の援助者の割り出しなど、マップ上に記入し、関係線を入れる。関係度合や、困難、孤立、限界的な環境、要防災地域などの推測や判断を行う。

カ. 個人情報の取り扱い方

行政各担当課とは個人情報保護条例に基づいた申請手続きを行うとともに、事業実施関係機関とは情報化と情報の誓約、個人情報の管理の誓約を結び、サポーター養成機関と指導機関との誓約を締結し、地域や個人においても、情報の取り扱い方法など協議し、明確にしておく

キ. 訪問員の養成ノウハウ

養成研修の開催①基礎研修20時間(事業の説明、介護保険、その他制度等の説明、サポーターの役割、介護の基礎などカリキュラムを工夫する。②スキルアップ研修(リーダー育成、介護予防の活動を自性を持ち率先して活動できる人材を育成。リーダーが今後の養成研修の講師となれるように育成する。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

キャラクターグッズの作成販売、自販機設置、切手、会員制の導入、インターネットでふるさと納税等の寄付呼びかけ

ケ. その他

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	石川県	市町村名	かほく市	所属ブロック	
人口(H24.9.30現在)	世帯数(H24.9.30現在)		高齢化率(H24.9.30現在)	ゾーン人口	
(人)	(世帯)		(%)	(人)	
35,097	11,819		24.9		

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

(問の主旨と相違しているかと思いますが)

災害時要援護者台帳登録制度は21年1月からスタートしていますが、台帳が簡易なものであり、登録者の生活環境や変化に対応しきれれておりません。今回、実態把握事業を利用し体制整備を図りたくシステム導入を予定しています。

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ. その他」に御記入ください。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

イ. 部局内の連携の仕方

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

カ. 個人情報の取り扱い方

キ. 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ

ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

○システム導入にあたり、[これはシステムに取り込むべきだ]というものがありましたら、お示し願います。

現段階で、かほく市として災害時要援護者支援システムの地図情報を活用した支援体制のイメージは下記のとおりです。

【登録者、支援者、一時避難所、拠点避難場所、福祉避難所、市内医療機関、水災害危険区域、急傾斜地危険箇所、地すべり危険箇所、防災倉庫等】

○生活保護の対象にならない生活困窮者の支援・早期把握などどうしているのか、ご教示願います。

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

御記入ありがとうございました。

【第2分科会】

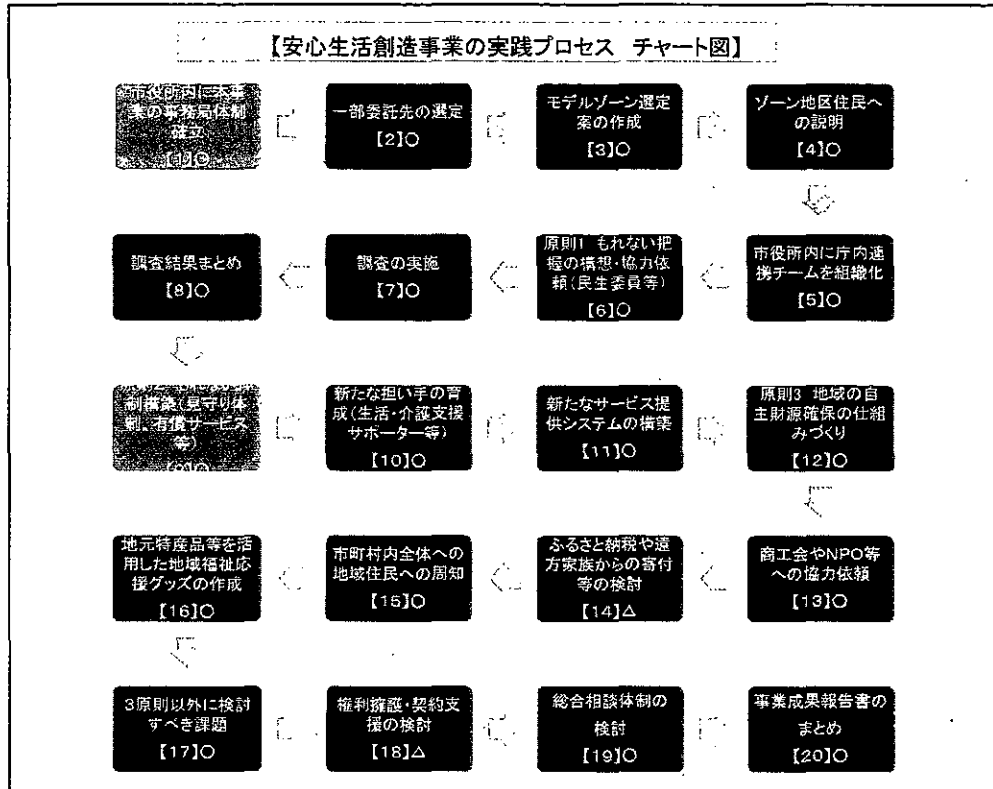
テーマ：部局内の連携の仕方及び関係機関、
民間事業者との連携の仕方

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	千葉県	市町村名	鴨川市	所属ブロック	
人口(H24.4.1 現在)	世帯数(H24.4.1 現在)	高齢化率(H24.4.1 現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
35853	15802	31.9	5,256		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
14	△	単独で考えるのではなく、まずは地域内での見守りや生活サポートのしくみ構築後に検討したいと考えた為に検討課題としました。
18	△	広域後見支援センターとして日常生活自立支援事業を実施。法人後見に向けては社会福祉協議会内の人作りと体制づくりを検討する必要がある。まずは地域内の権利擁護等に向けたネットワーク作りが先決と「医療・介護・保健・福祉の地域連携」講演会の際に弁護士、司法書士、行政書士に参加していただき、ネットワークの礎は築きました。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

住民が自ら気がつき主体的に参加できる様に働きかけることを大切にし、「見守り=顔の見える関係からつながり・つながる・つながる」ことを意識して活動を展開。対象者の把握をする為に①既存の地域内ネットワークを結びつけること②地域福祉活動者を増やすこと③生活支援やサロン活動などのサポート体制の新たな創設に重点をおく。「かもがわ おひさまの マーメイド」もこの理念をもちこみ、その一環としました。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

全域に広げるなど今後の展開も見据えて、市町村の特性がある地域を選定するのがよいと思います。規模は地区担当が展開しやすい小学校区もしくは中学校区と考えます。

イ. 部局内の連携の仕方

協働して動きやすいようにするために実施市町村内での本事業が実施市町村においてどの位置づけとし、その目的の共有とその為の体制づくり(人材づくり)をまず考えることが大切です。責任主体(行政)内や実施主体(社協)内の調整、行政と社協との企画・実践のための保健・福祉に関する専門職による検討部会を充足し情報共有することをお勧めします。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

なぜ本事業が必要なのかを地域で実際起こっている例をあげて説明し、関係機関等と課題や強みを共有する機会を持つことは大事です。とにかく出向いて思いを伝え、ネットワーク化することです。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

人とどれだけ会話しているか、困った時にお手伝いしてくれる身近な人がいるかなど具体的な内容と今後の地域内の展開を含めた内容を盛り込めば良かったと思っています。調査は全戸訪問とし地域内の課題に気がついて活動者の輪がひろがった経緯があります。ただ頼むのではなく、反省会などを行って意識を高めることは大切です。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

アンケート調査と共に見守り支援同意書をとりました。それを基に調査員や地区社協などと協力してマップを作成しました。保管や見直しについても相談しながら行いました。

カ. 個人情報の取り扱い方

見守り支援同意書をアンケートと同時にとりました。また、隣近所で地区に住んでいたらわかる範囲のことは地域内で共有しています。個人情報としても本人の心身に害を及ぼすことに関しては伝えてもらう事をお願いしています。

キ. 訪問員の養成ノウハウ

プログラムは検討部会内で、サポーター活動の目的と対象者や地域内の位置づけなどをまず話し合い内容を検討しました。講師は市内で活躍している専門職に依頼しました。フォローアップ研修は検討部会メンバーを中心に主に社協CSWが行い、組織化にむけたグループワークを行いました。現在もフォローアップしています。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

アドバイザーに相談し、琴平町社会福祉協議会のガリック娘を紹介され、視察へ行きました。地域の福祉的な課題と地域資源を結びつけて実践していて素晴らしいと思いました。鴨川市内の地域資源や課題を見直し検討部会で話し合い、農林業体験交流協会に相談にいきアドバイスをいただき取り組みを実施しました。

ケ. その他

地域づくりは人づくりです。地域の課題や支援を必要とする人の支援を通じて行政内や地域内のネットワークするなかで人の思いが伝播し行動していくのだと思います。困った時や悩む時は厚労省、他市の実践者、アドバイザーなどの方々に相談できるのは本当にありがたいです。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

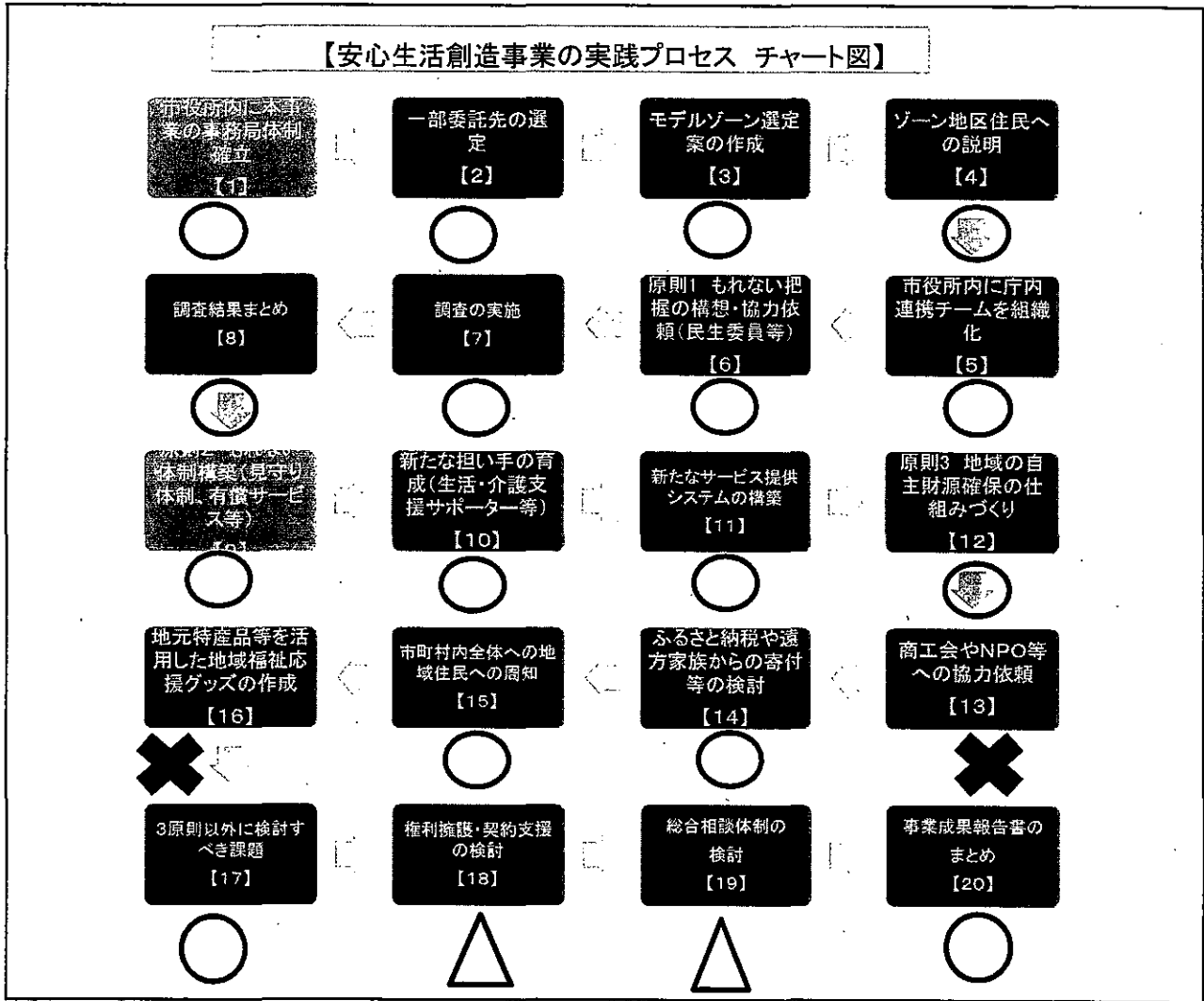
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	広島県	市町村名	庄原市	所属ブロック	中国・四国
人口(H24.9.30現在)	世帯数(H24.9.30現在)		高齢化率(H24.9.30現在)	ゾーン人口	
(人)	(世帯)		(%)	(人)	
39,702	16,032		38.1	22,730	

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
13	×	財源づくりを自治振興区単位で進めたため、商工会へ協力依頼をしませんでした。モデル地区には事業所や商店が少ないため協力依頼できませんでした。
16	×	別の財源づくりを試行したため、応援グッズの作成にいたらなかった。
18	△	見守り関係者からは、支援につながらず他から支援が始まったケースがあった。現在は、連携を図りながら支援につなげている。
19	△	現在検討中である。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

自治振興区との協働を重点的に進めました。関係者だけの見守りだけではなく、地域住民を巻き込み普段の生活の中で、隣り近所・向三軒両隣も巻き込んだ見守り体制の構築を進めました。

庄原市では、高齢者が高齢者を見守る仕組みづくりも進めました。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

モデルとして市内の3地区を指定しました。その後、市全域へ事業展開しやすいように特性が違う3地区を指定すると共に、規模も違う地域を指定しました。

イ. 部局内の連携の仕方

定期的に会議を持ち、進行状況をお伝えする。自治振興区で事業や行事が行われるときには、情報をその都度お伝えする。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

普段、業務中や会合などで会ったときには、必ず声を掛ける。年に数回は、会議を持ち事例などをお伝えし、連携を図る。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

アンケートは実施せず、地域で気になる方を各小地域で関係者(自治会長・自治会の福祉部・民生児童委員・ひとり暮らし高齢者巡回相談員・老人クラブ等)が一堂に集まり、自分達が普段の地域福祉活動で把握している情報や、生活していて気づいた事などを地域内で協議し把握。また、現在は対象者よりニーズが出た時には、各団体関係者や訪問員が自治振興区へ情報が集まる仕組みにしている。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

地域で気になる方(訪問対象者)を漏れなく把握するために、各小地域で関係者(自治会長・自治会の福祉部・民生児童委員・ひとり暮らし高齢者等巡回相談員・老人クラブ等)が一堂に集まり、自分達が普段の地域福祉活動で把握している情報や、生活していて気づいた事などを話し合い、気になる方を基盤支援支援対象者台帳へ記入しました。定期的に対象者の見直しを年2~3回実施し、併せて随時関係者で情報交換を行いました。

カ. 個人情報の取り扱い方

個人情報の取扱いについては、事業実施者側で意識統一を図り、共通認識にしました。本会ではこの件につきましては、住民関係者がご本人の同意を取りつつ、見守り対象者を把握する方法をとることにより個人情報保護の問題をクリアしました。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

訪問員は、地域住民の中から適任者を選び訪問をしていただきました。訪問員就任予定者には、2時間程度の研修を受けていただきました。「訪問員の心得」というテキストを作成し、訪問員には必ず受講していただきました。訪問員は、地域住民ということもあり、信頼関係が築け、ちょっとした支援(ゴミ出しや外出支援)が日常生活の中で行われるようになりました。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

・ふるさと応援会費・・・老親をふるさとへ残して都会へ出ておられる子どもさん方へ、この事業を応援していただくということで、年会費1口=5,000円で会員になっていただきました。この事業で少しでも子どもさんに親ごさんを気に掛けていただき、関係を深めていただくことを目的として実施しました。

ケ. その他

※ このアンケートは人口規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	大分県	市町村名	臼杵市	所属ブロック	九州ブロック
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24.10.1現在)	高齢化率(H24.10.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
42,270	17,389	32.99	42,270		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
6	△	行政のみで事業を実施していくことは困難であり、関係機関(特に地域)との協働による取り組みが重要なことから、事業開始当初の説明や合意形成、信頼関係の構築に至るまでのプロセスを重視し、取組みの主旨や必要性の説明に多くの時間と労力を要した。結果として連携体制は構築されたものの、この点が一番苦労した。
10	×	現時点では、他の取組みを優先させているため。
12・14	△	市においては「ふるさと納税」、社協においては「共同募金の分配金」について、それぞれ確保の協議を行なったが、原資が減少した場合の対応など、引き続き検討を要する。

13	△	買物困難地域の解消を目的に、商工会議所及び商工会との連携を進めたが、既存事業者の利益保護が、新規に参入しようとする移動店舗販売事業者にとって課題となり、調整は非常に困難であった。
18	×	社会福祉協議会が設置する、総合相談窓口の体制確立を最優先に取組んだことから、協議が進まなかった。今後は、総合相談窓口の対応力を強化する過程で、権利擁護についての取組みを予定している。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

安心生活お守りキットの配布を中心に、複数の分野で多くの関係機関や団体と連携しながら事業を実施したが、全ての事業において、臼杵市が「高齢者課題」先進地として、今取り組むことが今後10年先の臼杵市にとって重要であることを念頭に、地域に出向き、地域の人と話し、課題や問題を一緒に共有する姿勢で、わかりやすく、簡単で、理解しやすい取り組みを、みんなで話し合いながら計画、実施することを目標に取り組みを進めた。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

- ①臼杵市は、平成17年に沿岸部1市と山間部1町の対等合併により、新市として誕生した。
- ②文化、産業、人口規模などが異なる、様々な地域が混在している。
- ③ゾーンを設定する要素はあったものの、高齢化による地域活力の低下が共通の問題であることから、あえて複数のゾーンを設定せず、市内全域を一つのゾーンとして事業に取り組んだ。

イ. 部局内の連携の仕方

- ①安心生活お守りキット事業の実施にあたり、平成21年度から関係する部署(コミュニティ担当、福祉、高齢者、防災、消防署、社協)の担当者レベルの会議を月1回開催し、事業実施に関する検討、進捗状況等の情報共有を行った。
- ②本事業全体の進捗状況等については、市役所内の連携により地域コミュニティの再生に市を挙げて取り組んでいくことを目的に月1回開催する、課長レベルによる『生涯現役まちづくり会議』により情報共有を行った。
- ③平成23年度途中からは、この2つの会議を一本化することで、連携を強化しつつ、事務の簡素化と効率化を図っている。

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

- ①安心生活お守りキット事業に関しては、臼杵市自治会連合会、臼杵市民生委員児童委員連絡協議会と連携して事業を行っており、事業開始当初から何度も市の方針を説明するとともに、民生児童委員を対象にはアンケート調査を実施するなどして、既存の類似事業の現状や意見の集約を行なった。
- ②制度設計の段階から、関係機関に深くかかわっていただいたことで、強い連携体制を構築することが出来た。
- ③買物困難地域の解消を目標に連携を図った、商工会議所や移動店舗販売事業者などについては、既存事業者の利益保護の観点など、複数の課題から非常に難しいものであった。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

- ①安心生活お守りキット登録者に対して定期的(年3~4回)に郵便を送り、高齢者等にとって必要な情報提供やアンケート調査などを行っている。
- ②このなかで、市と郵便事業株式会社臼杵支店(当時)と連携し実施している郵便物の配達時の声かけサービスの意向確認(毎年1回)や、買物困難地域や移動販売の状況に関する調査(平成23年2月)などを行った。
- ③意向確認や調査は、対象者に高齢者が多いことから、非常に簡素な設問と選択肢回答とした。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

- ①安心生活お守りキット登録者の台帳システム(安心生活お守りシステム)を開発し運用している。
- ②システムは市役所内部(コミュニティ防災課、福祉課、高齢者支援課、市民生活課)及び消防本部(臼杵消防署、野津分署)、社会福祉協議会(臼杵事務所、野津事務所)の端末で閲覧できる。
- ③市内全域の自治会の区長及び民生児童委員にも、担当地区分の台帳を紙ベースで配布し、情報を共有しているが、マップ作成など台帳情報の地域での活用が今後の課題である。

カ. 個人情報の取り扱い方

- ①本人からの手上げ方式にて情報の登録を行なっている。
- ②緊急時の活用及び関係機関との情報共有に関して同意をもらっている。
- ③関係機関に対しては、個人情報の適正な取り扱いを徹底している。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

- ①安心生活お守りキット事業において、登録者等を個別に訪問する役割は、自治会の区長及び民生児童委員が担っている。
- ②地域において、顔の見える関係を構築している、区長や民生児童委員は、事業を推進する際の心強いパートナーである。
- ③本事業に関する説明や訪問時の注意事項等はその都度説明会を開催し徹底している。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

- ①ふるさと納税の一定割合を、地域活動補助や本事業へ充当できる仕組みを継続検討している。
- ②社会福祉協議会の事業においては、共同募金の分配比率の引き上げなども協議を続けている。
- ③地域内での見守りなど、臼杵市内の地域活動の中核を担っていくことを目的に、小学校区単位で設立を進めている『地域振興協議会』の自主財源の確保策として、商品価値のある地域独自の産品などを直販所やホームページなどを通して販売するなど、地域課題を逆手にとったコミュニティビジネスと、地域の高齢者の生きがい創出とを連携させて進めていきたいと考えている。例えば、山間部の高齢者と市街地の子ども達との交流を目的に、『炭焼き』や『椎茸の駒打ち』などを高齢者の指導で子ども達に体験させ、その際に作った炭や椎茸のホダ木を販売し、その収益を地域活動の財源とする、などがある。

ケ. その他

高齢者や障がいのある方などの見守りが必要な人たちが、「安心して住み慣れた地域で生活を送り続けることができるようなまちづくり」を目指して取組みを進めたが、どの事業においても行政だけでは限界があり、ネットワークを構築することの大切さを実感した。地域の中でしっかりとサポートできるような態勢の確立などは、見守られる側となる人にとっても大きな安心感がある。安心生活創造事業に限らず、関係機関や団体との連携や先進的な取組みについては、少なからず事業を推進する者の姿勢が結果に影響を与える。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。

御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	鹿児島県	市町村名	日置市	所属ブロック	九州
人口(H24.10.1現在)	世帯数(H24.10.1現在)	高齢化率(H24.10.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
51,181	22,688	29	51,181		

問1. 下記の実践プロセスのうち、現時点でうまく進んでいる過程には○を、実行が難しい過程には△を、実行できない過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



1	○	2	△	3	×	4	×
8	△	7	△	6	△	5	○
9	△	10	△	11	△	12	△
16	△	15	△	14	△	13	△
17	△	18	△	19	△	20	△

【△や×の具体的内容・理由】

過程番号	△/×	具体的内容・理由
2	△	委託先や委託の方法について先進事例を参考にしながら検討したい。
3	×	市全域で実施予定でありモデルゾーン選定の予定はない。
4	×	市全域で実施予定でありモデルゾーン選定の予定はない。
6	△	生活保護受給中の生活困窮者については、新たに雇用する生活再建支援員によるニーズ把握等を予定しているが、その他の生活困窮者のニーズ把握の方法については、先進事例を参考にしながら検討したい。
7	△	平成24年11月から、生活保護受給中の生活困窮者の社会参加のためのニーズ把握に着手予定である。
8	△	調査結果のまとめについては先進事例を参考にしながら検討したい。
9	△	もれない体制構築については先進事例を参考にしながら検討したい。
10	△	新たな担い手の育成については先進事例を参考にしながら検討したい。
11	△	新たなサービス提供システムの構築については先進事例を参考にしながら検討したい。
12	△	地域の自主財源確保の仕組みづくりについては先進事例を参考にしながら検討したい。
13	△	商工会やNPO等への協力依頼については先進事例を参考にしながら検討したい。
14	△	ふるさと納税等については先進事例を参考にしながら検討したい。
15	△	地域住民への周知方法については先進事例を参考にしながら検討したい。
16	△	地域福祉応援グッズの作成については先進事例を参考にしながら検討したい。
17	△	原則以外に検討すべき課題については先進事例を参考にしながら検討したい。
18	△	権利擁護・契約支援については先進事例を参考にしながら検討したい。
19	△	総合相談体制については先進事例を参考にしながら検討したい。
20	△	事業成果報告書のまとめについては先進事例を参考にしながら検討したい。

問2. 安心生活創造事業を行うにあたり、重点的に取り組んでいること(予定も可)は何ですか？
下記に御記入ください。

生活保護自立支援プログラムなどの先進事例を参考にしながら、企業、社会福祉法人、農業公社などに協力要請を行って、稼働能力のある生活保護受給者などの生活困窮者に就労、職場体験、ボランティアなどの社会参加の機会を提供できるような取り組みを予定している。

問3. 安心生活創造事業を行うにあたり、やり方がわからないこと・実施済み市町村へ聞いてみたいことを、◎・○で優先順位をつけて下記から選んでください。また下記以外にあれば「ケ. その他」に御記入ください。(複数回答可)

- ア. ゾーンの設定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)
- イ. 部局内の連携の仕方
- ◎ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方
- エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容
- オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方
- カ. 個人情報の取り扱い方
- キ. 見守りをするための支援する人(訪問員等)の養成のノウハウ
- ク. 自主財源確保のためのアイデア
- ケ. その他

問4. 安心生活創造事業への意気込み、厚生労働省への要望等、自由に御記入ください。

一人暮らし世帯等が地域で安心して暮らせるための支援を行うことが安心生活創造事業の目的となっているが、日置市では、生活保護自立支援プログラムでの先進事例などを参考にしながら、就労可能な生活保護受給者などの生活困窮者に職業体験やボランティア体験などの機会を提供するための実践と体制整備に取り組む予定である。稼働能力の活用は保護受給の要件とされているが、一般就労が困難ではあるが、稼働能力のある被保護者の社会参加の機会は極めて乏しい状況である。企業や社会福祉法人などの協力を得て、就労可能な生活困窮者に社会参加の機会を提供することで、生活困窮者の方々が社会貢献を行っているという意識を持ちながら地域で安心して暮らせることになれば事業の目的を達せられると考えています。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

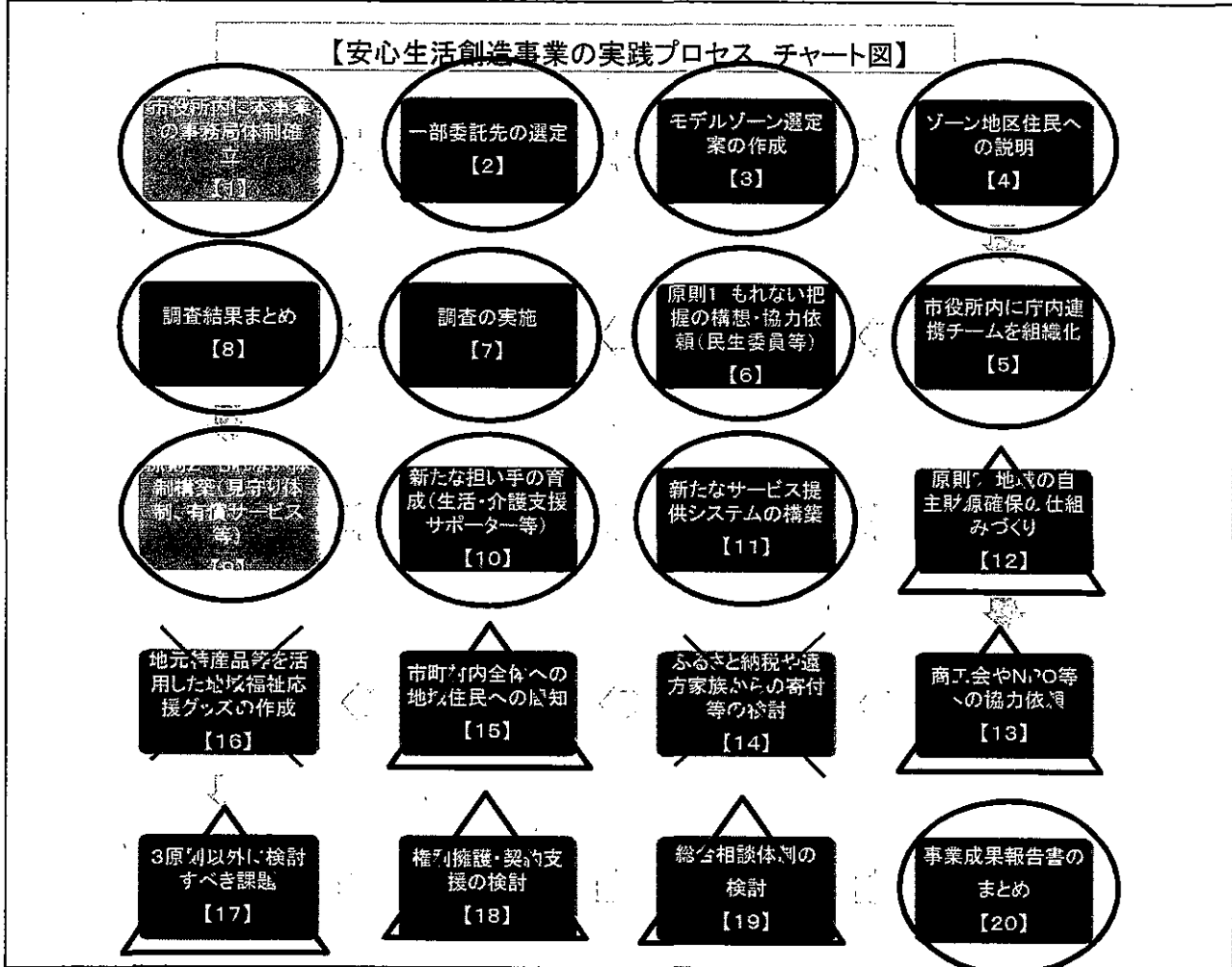
※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。

H24安心生活創造事業全国会議 人口規模別分科会事前アンケート

都道府県名	栃木県	市町村名	大田原市	所属ブロック	関東
人口(H24.7.1現在)	世帯数(H24.7.1現在)	高齢化率(H24.7.1現在)	ゾーン人口		
(人)	(世帯)	(%)	(人)		
74,544	27,192	22.36	32,364		

※昨年度末の地域福祉推進市町村連絡会議での事前アンケートと質問内容が重複している部分もありますがご容赦ください。

問1. 下記の実践プロセスのうち、これまでの3年間でうまく進んだ過程には○を、実行が難しかった過程には△を、実行できなかった過程には×をつけてください(複数回答可・チャート図通りの進行でなくても構いません)また、△や×の過程について、その具体的な内容や理由を下記にご記入ください。



【△や×の具体的な内容・理由】

過程番号	△/×	具体的な内容・理由
12・13・15	△	バザーや募金箱の設置などで自主財源確保に取り組んでいるが、活動経費の十分な財源確保には至っていない。
14・16	×	検討中だが、具体的な案が見つからない。
17・18・19	△	支援が必要な事例が出た際はケア会議等を開催し支援につなげているが、全体的な仕組みとしての権利擁護・契約支援・総合相談体制ができてはいない。

問2. 3年間の取り組みの中で、重点的に取り組んだことは何ですか？下記に御記入ください。

自治会単位で見守り活動の組織を作ることで、近隣住民によるつながり力を復活させながら見守り活動を推進した。
訪問などを行う事業所など協力機関との連携をすることで、地域だけでなく社会全体で見守る体制づくりを推進した。
国際医療福祉大学の学生ボランティアと連携し、世代間交流を行った。

問3. 下記の項目について、新規実施市町村へのアドバイスをお願いします。(複数回答可)

ア. ゾーンの選定の仕方(どのような地域特性に配慮して決めたか、規模)

地域で積極的に取り組みたいという声があり、リーダーシップのとれる人がいる地域。地区社会福祉協議会ごとに選定し、選定した地域で成果が出れば、徐々に他の地域にも理解が広がり拡大していく。

イ. 部局内の連携の仕方

ウ. 関係機関、民間事業者との連携の仕方

関係機関連絡会議を開催。事業の共通理解を図る。

エ. 対象者・ニーズの把握のための住民アンケートの内容

対象者に日常生活の困りごとや不安を調査、一般住民に福祉に対する意識調査をすることで、住民がどのような支援ができるのかを検討することができる。

オ. 基盤支援対象者台帳、マップの作成の仕方

自治会単位で支え合いマップ作りをすることで、普段なかなか気付かなかった近所のつながりを視覚的に理解することができ、住民の見守り意識の向上につながる。

カ. 個人情報の取り扱い方

見守りをする側から誓約書、見守り対象者からは同意書をもらい、見守り活動以外には漏らさない取り組みをする。

キ. 訪問員の養成のノウハウ

隊員研修を実施し、見守り活動への意識を高める。

ク. 自主財源確保のためのアイデア

ケ. その他

地域の方を主任(コーディネーター)として配置することで、地域からの声を迅速に反映させるとともに、行政と地域の調整役としての役割を果たしてもらっている。

※ このアンケートは人工規模別分科会のテーマ決定、参加希望の聴取及び意見交換等のための資料としても使用(公開)します。

※ 分科会への参加希望の聴取につきましてはテーマが決定し次第お知らせいたします。
御記入ありがとうございました。